

2026年度

未来こども科

1年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)					年度	2026年度		
					科目コード	K1-K01		
時間数は45分換算								
授業科目名					学科・コース			
英会話 I					未来こども科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
1年	前期	必修	30	1	杉森沙奈恵			
授業の目的								
園の外国人講師と外国の園児または保護者とのやりとりができるようになるため園や日常で使う英語を学ぶ								
授業の到達目標								
園の外国人講師と外国の園児または保護者と、簡単な英語でコミュニケーションをとることができる。 英語の手遊び歌や昔話の英訳に触れ、外国の文化を理解できる								
授業方式								
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型				
授業形態								
講義	○	演習		実験・実習・実技	○			
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業				
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○			
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
出席状況					%	%	10%	10%
態度 (授業内での積極性など)					%	20%	20%	40%
期末テスト					50%	%	%	50%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
使用テキスト・教材								
・ Happy English for childcare by KINSEIDO								

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K1-K02
					時間数は45分換算	
授業科目名					学科・コース	
健康科学					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	15	1	江川 博一	
授業の目的						
<p>様々なスポーツ現象に関わる情報に触れ、自ら具体的に情報を収集し、適切な情報を選択し、自分の頭で考えながら実践していくために必要なスポーツや健康に関わった知識を獲得し、関心・意欲・態度を身に付ける</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> 健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することができる 「生涯スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での条件整備の在り方について批判的に考えることができる 						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	<input type="radio"/>	教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
レポート		10%	20%	10%	40%	
試験		25%	25%	%	50%	
受講愛度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> 「生涯スポーツ・健康科学」・近畿大学九州短期大学・鐘ヶ江淳一・平成9年 						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K03			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Constitution of Japan 日本国憲法				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	2	中村 美智子	
授業の目的						
日本国憲法はわが国の最高法規であるが、身近な法律とは言い難い。しかし、保育を志す学生にとっては当然、知っておくべき内容が多い。権利意識の向上、日本をとりまく国際状況に対する防衛、また国会、内閣、裁判所の内容等々、時に新聞記事を用い、わかり易く説明をすることにより理解を深めることを目標とする。						
授業の到達目標						
1. 憲法とは何かをテキストの巻末にある前文と条文で理解する。2. 三原則の一つ国民主権を欧米の人権思想から理解する。3. 基本的人権について、新しい人権を含め学ぶ。 4. 平和主義は第9条のみであるが、自衛隊が組織された経緯など問題を理解する。 5. 国会、内閣、裁判所の各役割りを三権分立の観点から学ぶ。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時テスト(筆記)			30%	20%	%	50%
課題(レポート 2種 提出 各1500字程度)			20%	30%	%	50%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
・「日本国憲法」 近畿大学九州短期大学 ・朝日新聞						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K04			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Introduction to Information Processing I 情報処理入門 I					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	15	1	小澤 稔	
授業の目的						
テキスト第1章「情報処理の基礎」～第3章「ソフトウェア」を学習範囲とし、情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて概観する。						
授業の到達目標						
①情報の意味を説明できる ②データの表現方法が説明できる ③コンピュータの歴史と5大装置が説明できる ④ソフトウェアの種類（基本ソフトウェア、応用ソフトウェア等）の違いを説明できる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
最終課題（科目終末試験）		40%	10%		50%	
途中課題（レポート）		30%	10%		40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
情報処理入門						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 情報処理の基礎			
1-1 情報とは 情報とデータの意味	2	○	△
1-2 データの表現方法	6	○	△
1-2-1 データの種類			
1-2-2 データ表現の考え方			
1-2-3 アナログとデジタル			
1-2-4 数値データの表現			
1-2-5 ビットとバイト			
1-2-6 文字データの表現			
1-2-7 画像データの表現			
1-2-8 音声データの表現			
2. コンピュータシステム			
2-1 コンピュータの世界	2	○	△
2-1-1 計算機の誕生			
2-1-2 電子計算機の誕生と発展			
2-2 コンピュータの5大装置	2	○	△
2-3 入力装置			
2-4 出力装置			
2-5 記憶装置（主記憶装置・補助記憶装置）			
2-6 中央処理装置			
3. ソフトウェア			
3-1 基本ソフトウェア	2	○	△
3-2 代表的なソフトウェア			
3-3 応用ソフトウェア			
3-4 市販ソフトウェアとフリーウェアとシェアウェア			
科目終末試験	1	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	情報処理入門 I S		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K1-K05	
					時間数は45分換算		
授業科目名					学科・コース		
国語表現					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	30	2	平野 久美子		
授業の目的							
よみやすく正しい文字の書き方を身につける。現代日本語の特徴としくみを知り、相手に的確に伝わる話し方や文章の書き方を学ぶ。特に保育の現場で広く使われる用語を覚え、実習記録や保育日誌にふさわしい実用的な文章を、適切に書く力を養う。幼小連携も視野に入れ、小学校低学年児が学習する日本語の文字や表記を覚える。やさしい日本語について理解する。							
授業の到達目標							
1. 保育の基本用語の意味を覚え、正しい漢字で書く。 2. 日本語で使う文字（漢字・かな・アルファベット・算用数字）をよみやすく適切に書く。 3. 日本語表記の基本を知り、正しく書く。 4. 実習記録や保育日誌にふさわしい表現を覚える。 5. わかりやすい表現、相手に的確に伝わる話し方や書き方を身につける。							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ	○	PBL		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点			配点計		
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度			
修了テスト		30%	%	%	30%		
課題テスト		30%	%	%	30%		
提出シート・ノート		10%	20%	%	30%		
受講態度		%	%	10%	10%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
使用テキスト・教材							
長島和代 編「保育の基本用語 改訂2版」(わかば社 2021) 長島和代 編「保育のマナーと言葉 改定2版」(わかば社 2021) ※その他に講師作成の授業プリントを配布する ※ノートを配布							

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
0. ガイダンス	1		
※授業の説明 授業プリント・提出シートの配布			
1. 日本語で使う文字	2		
2. 日本語の表記	2		
3. 語句を適切に使う	2		
4. 3つの文の形・常体と敬体	2		
5. 短い文で書く・箇条書き	3		
6. わかりやすい文・伝わる文を書く	3		
7. 適切な表現・差別語や俗語を使わない	2		
*課題テスト（範囲・内容は事前に告知します）	1	○	○
8. 実習記録・保育用語	3		
9. 連絡帳とメール	2		
10. はがきや手紙の書き方	2		
11. やさしい日本語	2		
12. まとめ	2		
*修了テスト（範囲・内容は事前に告知します）	1	○	○
*提出シートやノート（随時回収）			○
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2026 年度		
		科目コード	K1-K06		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
保育基礎講座				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	安部 珠恵 夏目 靖子 青木 直子
授業の目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人や保育者としての基本的なマナーを理解し、それらをロールプレイングにて実践できるようにする。 ・実習を想定して、実習先の教員、保護者と正しい言葉遣いで情報交換ができ、また電話でも実習依頼ができるように電話の対応を学ぶ。 ・2年次で学ぶ認定絵本士養成講座の土台として、絵本の基礎知識を学ぶ。 					
授業の到達目標					
(1) 礼儀正しい挨拶とお辞儀ができる (2) 保育者としてTPOを意識した身だしなみができる (3) アルバイト言葉を使わずに敬語で会話ができる (4) 実習依頼の電話をかけることができる (5) 絵本に興味や関心を持ち、保育現場における基本的知識や技術を理解する。					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	○
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
ロールプレイング		50%	%	%	50%
授業態度		%	%	50%	50%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
プリント えほんのきほん					

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
1. 挨拶の仕方、正しいお辞儀、入室の仕方。	2	○	△
2. 実習のこころがけ	2	○	△
3. 正しい敬語の使い方 間違った敬語について	2	○	△
4. 実習先への電話のかけ方	2	○	△
5. 身だしなみチェック。スーツチェック	2	○	○
6. 日常生活の中でのマナー	10	○	○
7. 絵本の知識及び技術	10	○	○
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K07			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Toddlers and words 幼児と言葉					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために専門的事項に関する知識を身に付ける。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 ・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ・子どもの発達における言葉の重要性について理解する。 ・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
受講態度・意欲・出席状況		%	%	20%	20%	
小テスト		10%	10%	%	20%	
レポート		10%	10%	%	20%	
テスト		20%	20%	%	40%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児と言葉」(萌文書林)・「幼稚園教育要領(最新版)」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)」・「保育所保育指針(最新版)」 						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K08			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
幼児と人間関係					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	田村 都弥	
授業の目的						
①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。 ②子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。 ③子どもの自律性と集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う仲間集団の条件を理解する。						
授業の到達目標						
領域「人間関係」に関する理論を理解し、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
終了時試験（筆記）		25%	25%	%	50%	
随時試験（筆記）		10%	10%	%	20%	
授業での積極性と表現内容		%	%	30%	30%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
・幼児と人間関係(同文書院) ・『幼稚園教育要領(最新版)』 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』 ・『保育所保育指針(最新版)』						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 仲間集団と道徳性の育ち	1		
2. 子どもが自己表現できる集団づくりー保育者の関わり方の基礎	1		
3. 集団のなかでの「特別な支援」 ジレンマを越えるには	1		
4. 保育者との信頼関係	2		
5. 地域社会の人々との交流	1		
6. 「人と関わる力」と子どもの成長	2	○	△
7. 地域社会の変容 戦後~高度成長期	1		
8. 地域社会の現状ー都市化・個人化・地域の自治組織	1		
9. 家庭環境の変容 核家族化としつけ	1		
10. 家庭環境の現状ー家庭支援の必要性	2		
11. 発達過程に応じた人との関わり	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	・ 人間関係（指導法） S		

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K09			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Infants and the Environment 幼児と環境					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	山崎 努	
授業の目的						
身近な環境との関わりに関する領域「環境」を理解するために、動植物の栽培や飼育、自然物や身近な素材を使った遊び等の実体験を通して学ぶ。						
授業の到達目標						
(1) 物を大切にする (2) 身近な環境に気づくことができる (3) 子どもが自然や季節、身近な動植物等に興味関心を持って主体的に取り組める環境を構成することができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
受講態度		%	%	40%	40%	
提出物 (レポート)		10%	10%	20%	40%	
修了時試験		20%	%	%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
適宜資料を配布する						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K1-K11	
					時間数は45分換算		
授業科目名					学科・コース		
Social Welfare 社会福祉					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	30	2	栗田 高典		
授業の目的							
これまでの歴史や現代社会の中で社会福祉の対象となる問題を取り上げ、社会福祉の意義を考えます。その上で、社会福祉の全体像をとらえ、福祉専門職の果たすべき役割について考えます。							
授業の到達目標							
社会福祉の課題を歴史上の出来事や現代社会の中から取り上げ、当事者の立場に立って考察します。テーマごとに小テストを行い、細かく振り返りをしながら知識を深めていきます。							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
修了時テスト(筆記)			40%	20%	%	60%	
レポート			10%	20%	%	30%	
授業態度			%	%	10%	10%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
コメディカルのための社会福祉概論 第4版 鬼崎伸好・本郷秀和著 講談社 新聞記事・行政資料							

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K1-K12
					時間数は45分換算	
授業科目名					学科・コース	
教育原理					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	2	鈴木 まき子	
授業の目的						
<p>教育の意義、目的、方法、内容、制度、行政、また、教師の役割などに関する基本的な原理、及びそれらの歴史・思想・構造・機能の概要また、今日的な教育改革について学ぶ。</p> <p>後半では、保育及び幼児教育制度に特化し、乳幼児教育を志向した教育原理を学修する。</p>						
授業の到達目標						
<p>教育の意義と目的 教育の制度及び歴史 保育幼児教育制度の変化及び現状を踏まえ、日本の子育ての未来について理解し、語る事ができる。</p> <p>学生同士の話し合いを毎時行い、多様な考え方を交流し持論を確立し、子育ての未来について語る事ができる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期試験		40%	10%	10%	60%	
課題提出		10%	10%	10%	30%	
授業態度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
保育のための教育原理						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1 オリエンテーション授業の概要について 教育とは何か①（教育の意義と目的） 応答的教育について	2		
2 教育とは何か②（教育と福祉）	2		
3 教育とは何か③（家庭・地域・社会等とのつながり）	2		
4 幼児教育思想の歴史 子供観の今昔 ①（エラスムス コメニウス）	2		
5 近代的幼児思想の源流 ②（ルソー、ペスタロッチ フレーベル）	2		
6 日本の幼児教育 ③（日本の教育思想と歴史：倉橋惣三「育ての心」から）	2		
7 教育の制度 ①（学校教育制度・幼稚園保育所・及び制度義務教育制度の歴史）	2		△
8 教育の制度 ②（社会教育制度の概要・生涯学習の理論）	2		△
9 教育の実践①（乳・幼児教育実践の基礎理論）	2		
10 教育の実践②（乳・幼児教育実践の基礎理論）	2		
11 教育の実践③ （教育実践の具体例から考察：幼児期の終わりまでに育ってほしい1から3）	2		
12 教育の実践④ （教育実践の具体例から考察：幼児期の終わりまでに育ってほしい4から6）	2		
13 教育の実践⑤ （教育実践の具体例から考察：幼児期の終わりまでに育ってほしい7から10）	2		
14 教育とは何か①（教育の現状・課題：今日的課題から提案①）	2	○	△
15 教育とは何か②（教育の現状・課題：今日的課題から提案②）	2	○	△
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	・保育者論 ・保育原理		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K1-K14
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Psychology of Infants ----- 幼児の心理学					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	15	1	内田 博昭	
授業の目的						
具体的事例を個人で、そしてペア・グループで検討しながら、幼児の心理学の知識を深め、保育実践力を高めていく。						
授業の到達目標						
・乳幼児の発達段階に合わせて効果的な教育活動を行うために必要な心理学の知識と実践方法を身につける。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目						
受講態度			%	%	10%	10%
中間課題 (レポート)			30%	10%	%	40%
最終課題 (試験)			40%	10%	%	50%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
・保育に活かす教育心理学						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K1-K15
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Shape Disfigured 造形表現 (指導法)					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	戸塚 恵	
授業の目的						
保育者が幼児一人一人の自己表現を受容・理解し、幼児の豊かな感性を養う援助者であるために、子供の能力・身体的発達と幼児の発達過程の特徴について理解し、子供一人一人の発達に応じた援助の必要性について学び、成長を見守れる保育者を目指す。						
授業の到達目標						
幼児の身体と心、能力の発達と造形表現の発達の関連を学び、それぞれの発達段階に対応した指導ができるように基礎的知識と技術の履修を目指す。 材料や道具の使い方を習得し、造形の基礎知識を習得する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
発達表			30%	%	%	30%
制作課題			30%	%	%	30%
教材研究			30%	%	%	30%
取り組み意欲			%	%	10%	10%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
造形表現 (指導法) 教科書 アクリルガッシュ・スケッチブック・定規・ハサミ・カッター・のり・ボンド・ホットボンド (グルーガン) その他						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K1-K22	
					時間数は45分換算		
授業科目名					学科・コース		
社会的養護 I					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必須	30	2	徳田 義盛		
授業の目的							
<p>児童の権利擁護の最前線で主体的に活躍できる保育士を育成するために、社会的養護の意義、歴史的変遷の基礎的な理解や、児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状と課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応や、児童の生活・成長・発達支援のあり方について考察を深める。</p>							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の現状について、調査データ等をもとに、正しく理解できる。 ・社会的養護の歴史的変遷や制度、実施体系について、諸外国、日本を比較しながら、正しく理解できる。 ・社会的養護の必要性について、児童の権利擁護の観点から、自らの考えを述べるができる。 ・保育実践を通して、児童のみならず、家庭、地域の多様なニーズに気づき、効果的な支援に結びつけることのできるソーシャルワーク実践の基礎的な考え方を身につける。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
期中レポート課題			15%	10%	%	25%	
受講態度			%	%	25%	25%	
随時試験			10%	15%	%	25%	
期末試験			10%	15%	%	25%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
『新・基本保育シリーズ6 社会的養護 I』中央法規出版							

シラバス (授業概要)					年度	2026 年度	
					科目コード	K1-K25	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
保育の計画と評価					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	30	2	朝元 麻紀		
授業の目的							
実習や就職に向けて将来のイメージを膨らませながら授業に参加し、保育計画を立てる大切さを学ぶ。							
授業の到達目標							
<p>(1) 幼稚園における教育課程・保育計画の意義を考えるとともに幼稚園教育要領・10の力の考え方を学ぶ。</p> <p>(2) 幼稚園実習・保育実習さらには就職に向けて、教育理念的内容と考える力を養う。</p> <p>(3) 指導案の指導案の意義を理解し、計画できる。</p>							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技	○		
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○		
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
修了時テスト(筆記・指導案作成提出)			20%	10%	20%	50%	
随時レポート			10%	10%	10%	30%	
受講態度			%	%	20%	20%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
「あたらしい幼児教育課程総論」「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園・保育要領」							

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K26			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
保育内容総論					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	寺澤達也	
授業の目的						
<p>保育全体を理解するための資料及び具体的な実践事例を通じて子どもの発達や実態に即した保育内容の基本的な考え方を理解する。これらを通して、保育内容を総合的に捉える視点を養い、保育を構想する力や実践力を身に着けることを目的とする。</p>						
授業の到達目標						
<p>①保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。 ②子どもの発達特性や発達過程を踏まえて、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかわりについて学ぶ。 ③保育の多様な展開について具体的に理解する。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		50%	%	%	%	
提出物(演習ワークレポート)		%	30%	%	30%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてプリントを配布 ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領 						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. ガイダンス (授業内容の説明と予定)・保育内容総論とは	2		
2. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」に基づく保育全体の理解	2		
3. 子どもと保育内容(演習ワーク)			
3-1 子どもの理解	2		
3-2 子どもの発達と生活	2		
3-3 子どもを取り巻く環境	2		
3-4 子どもと遊び	2	○	△
4. 領域と保育内容(演習ワーク)			
4-1 「健康」と保育内容	2		
4-2 「人間関係」と保育内容	2		
4-3 「環境」と保育内容	2		
4-4 「言葉」と保育内容	2		
4-5 「表現」と保育内容	2		
5. 保育者の役割と保育内容			
5-1 気になる子どもの支援	2		
5-2 保護者との連携	2		
5-3 保幼小の連携	2		
6. まとめ 授業の振り返り	2		
修了試験		○	○
その他	関連科目		
担当教員は、幼稚園教諭・保育士・園長等の豊かな経験を持ち、子どもに学びながら自身も成長してきた。その実績をもとに具体的なエピソードを踏まえて実践的な講義を行う。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	保育内容 「健康」「人間関係」 「環境」「言葉」「表現」		

シラバス (授業概要)		年度	2026年度		
		科目コード	K1-K27		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Educational Methodology 教育方法論				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	寺澤達也
授業の目的					
<p>幼児教育の方法・カリキュラムについて学び、教育の方法とその技術にかかわる基本的概念や内容を理解する。また、この理解を深めるために子どもの成長、発達のアセスメント方法及び保育現場での具体的な観察方法などについて学びを深める。</p>					
授業の到達目標					
<p>① 保育・教育に関する教育方法の基本的な知識を習得する。 ② 様々な諸活動の指導方法を考察し、そこから自分なりの課題を見出すことができる。 ③ 教師・保育者の意図や工夫、子どもが何を学んでいるかについて考え、表現できる。 ④ 保育実践事例について討論できる。</p>					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		PBL		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価項目	評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了試験(筆記)		50%	%	%	50%
レポート作成及び課題発表		%	30%	%	30%
授業態度		%	%	%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<p>幼児教育・保育のための教育方法論 必要に応じて適宜プリントを配布</p>					

シラバス (授業概要)		年度		2026年度	
		科目コード		K1-K28	
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
保育者論				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	鈴木 まき子
授業の目的					
<p>教育現場・幼稚園での教職及び児童福祉施設や認定こども園での保育専門職の意義や職務内容・役割等について理解を深める。また、教員・保育者採用の実態や研修制度、更には教職、保育専門職と地域との関わり・社会貢献等について体系的に学修し、教育・保育現場における反省的实践者となるための準備教育を行う。</p>					
授業の到達目標					
<p>乳幼児に愛情を持ち保育の質を高められる教職・保育専門職を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職、保育専門職の意義及び役割・職務内容について理解する。(研修、服務、身分保障含む) ・進路選択に資する各種の機会提供等を受け未来の教職・保育専門職に夢と期待をもつ。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
定期試験		40%	10%	10%	60%
課題提出		10%	10%	10%	30%
授業態度		%	%	10%	10%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<新訂>教職入門－未来の教師に向けて 改訂版					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1 オリエンテーション 教育とは何か（未来の教職、保育専門職に向けて） 学習課題の確認と形成(第 15 回に発表)DVD 視聴 「命の尊厳」から「命を預かること」の理解	2		
2 教職観：今まで出会った教師と理想像について話し合い整理し、自己が目指す教師像を形成する（幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校時代）パペット型紙 配布	2		
3 教育観：教職・保育専門職についての適性について(エゴグラム の活用) 自分を好きになる事・・・自分自身の強みと弱みを知る	2		
4 教師の資質：教職専門性・カウンセリングマインド・ アンガーマネジメント について	2		
5 幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての使命及び職務内容について	2		
6 求められる専門性と人間性① (保育の専門性と人間性：保育者としての資質及び留意事項について)	2		
7 求められる専門性と人間性② (保育者の役割：集団的指導・園務分掌、保育者の服務義務について)	2		△
8 求められる専門性と人間性③ (保育者の自己啓発と研修：目標設定から新しい課題の発見まで⇒ 理想の保育者像)	2		△
9 幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び (担任の一日と一年、幼稚園・保育所・認定こども園の遊び)	2		
10 保育者をめぐる現代的諸問題① (保育者と乳幼児・児童・生徒：指導と内容、保育者としての古くて新しい役割：国際化・情報化、体験活動、キャリア教育)	2		
11 保育者をめぐる現代的諸問題② (保育者と保護者支援・相互理解と連携について、社会的評価について)	2		
12 保育者の力量とは何か① (保育力とは何か・・・作成したパペットを利用して他己紹介)	2	○	△
13 保育者の力量とは何か② (保育の使命感と愛情及び知識・技能・態度について、作成したパズルの発表)	2	○	△
14 保育者の力量とは何か③ (新しい要領、指針から 10 の学びと具体的指導について理解)	2	○	△
15 保育者の力量とは何かパワーポイントによる発表 乳幼児に愛情を持ち保育の質を高められる教職・保育専門職を目指す。	2	○	△
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度		2026 年度		
		科目コード		K1-K30		
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
児童文化				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	15	1	江塚 会里	
授業の目的						
<p>児童文化は、大人が子どものために作ったり、子どもたち自身が作ったりしながら遊びの中で子どもたち共有され、楽しまれ、仲間や次の世代に伝えられていくものである。この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、自分自身も児童文化財に触れ、児童文化の実践的指導ができるよう学習する。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっての児童文化の必要性を理解できる。 ・遊びの分類、種類を学び、児童文化財が子どもたちにとってどのような影響を与えるかを理解できる。 ・伝承遊び、絵本、紙芝居、おもちゃ、遊び場と施設、遊具等の意義と与え方が理解できる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
最終課題 (科目終末試験)			20%	20%	10%	50%
中間課題 (レポート)			10%	10%	10%	30%
受講態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学テキスト「児童文化」 						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
オリエンテーション	2	○	△
1 児童文化とは何か 子ども達にとっての児童文化の必要性			
2 子どものつくる児童文化財	2	○	△
3 こどものスポーツと遊びの関連	2		
4 伝承遊び わらべうた・手遊び	2	○	△
5 折り紙とぬりえ	2		
6 読み聞かせの意義と留意点 絵本の選び方、与え方の留意点	2	○	△
7 絵本と紙芝居の児童文化財としての特徴と相違	2		
8 遊びの施設の概要 児童文化の組織と活動の概要	2		
その他		関連科目	
※実務経験のある教員が担当する科目である。		・児童文化 S	

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K33			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Childcare training instruction I 保育実習指導 I (保育所)				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	平野 久美子	
授業の目的						
保育実習の意義、目的を理解する。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。						
授業の到達目標						
保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。指導計画案の作成や、実習日誌の書き方などにかかわる知識と技術を身につける。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
意欲・態度			%	%	30%	30%
各單元ごとのレポート (指導案、実習日誌)			20%	20%	10%	50%
実習事前レポート			%	20%	%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 (H29年告示)」チャイルド本社 厚生労働省編「保育所保育指針解説書 (H30年3月)」フレーベル館 石崎裕子他編「新訂 知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版」同文書院 2018年						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K34			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Facilities Instruction I 保育実習指導 I (施設)				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
この科目では、初めに保育実習(施設)の意義・目的・内容といった保育実習(施設)の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習(保育所以外)についての授業を行う。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習(施設実習)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・ 指導計画書の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。 ・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
意欲・態度			%	%	30%	30%
単元ごとのレポート(指導案、実習日誌)			20%	20%	10%	50%
実習事前事後レポート			%	20%	%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
石崎裕子他編「新訂 知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」同文書院 2018年						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K35			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Internship at preschool 保育実習Ⅰ (保育)				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	60	2	江塚 会里	
授業の目的						
「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ②子どもへの理解を深める③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるが理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
意欲・態度			%	%	20%	20%
実習日誌 (指導案、実習日誌)			10%	10%	10%	30%
園評価			10%	10%	10%	30%
実習事前レポート			%	10%	10%	20%
使用テキスト・教材						
石崎裕子他編「新訂 知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」同文書院 2018年						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 保育所の内容、機能について理解する。(保育所の1日の流れやプログラムの理解など)	10	○	△
2. 保育所における子どもの理解。(年齢(月齢)ごとの子どもの発達とその特徴など。)	10	○	△
3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。	10	○	△
4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。	16	○	△
5. 手遊び、歌遊びなどを実践する。	10	○	△
6. まとめ	4	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する。 ※担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。	・保育実習事前事後指導Ⅰ (保育所実習) ・保育実習Ⅱ		

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K39			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Pre-training post-mortem instruction I 実習事前・事後指導 I				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	2	江塚 会里	
授業の目的						
保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程の実習指導と並行して本校同時科目として、保育所、幼稚園、認定こども園等の実際の保育の現場で体験的学習を学習するために必要な実習事前事後の準備、振り返りを行う。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にする。 ・実習生として必要な態度・マナーを身につける。 ・実習に必要な書類や実習中の記録の書き方を身につける。 ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度・意欲・出席状況			%	%	40%	40%
課題			10%	10%	10%	30%
発表（模擬保育）			10%	10%	10%	30%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 教育・保育実習実技ガイド ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・配布資料 						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-K41			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Music play 音楽演奏 I					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	鈴木 千緒 依田 真理子 鈴木 加絵	
授業の目的						
音楽は保育現場で欠かすことのできない情操教育であり、歌やピアノなどの演奏は子供と関わる上で必要不可欠なスキルである。楽譜を読む能力を身につけ、音楽の基礎能力を養う。また、ピアノ演奏での正しい身体の使い方を学ぶ。						
授業の到達目標						
(1) 音楽を構成する音やリズムの基礎を理解する。 (2) 楽譜を正しく読む能力を身につける。 (3) ピアノを正しく演奏できる。 (4) 正しいリズムと音程で歌を歌うことができる。 (5) 弾き歌いの技術を身につける。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他	課題曲・自由曲の演奏及び発表					
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時テスト (ピアノ演奏)			15%	15%	20%	50%
修了時テスト (歌)			20%	10%	10%	40%
受講態度			%	%	10%	10%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
こどものうた (チャイルド社) 近畿大学九州短期大学テキスト						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K1-K43	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Practical Courses 実践講座 I					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	30	1	寺澤 和美		
授業の目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・保育における製作やあそびの意義、目的を実際に取り組む中で学んでいく ・子どもが使用する用具の基本的な扱いや、保育における導入・展開方法の基礎的な部分を学ぶ ・毎授業導入時に手あそび、絵本、歌などを使用し、実践的な保育の展開方法を学び、保育の実践の中で使うことができるレパートリーの幅を広げていく 							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・保育における製作の理解や、用具の扱いの基礎を身に付ける。 ・自身が製作する中で、表現する楽しさや作り上げる達成感を感じ、保育の中で用いていく意欲を身に付ける ・様々な材料や教材に触れながら、素材の面白さや環境構成の大切さに気付く 							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
課題 (作品)			20%	20%	%	40%	
発表			20%	20%	%	40%	
受講態度			%	%	20%	20%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							

シラバス (授業概要)		年度	2026 年度			
		科目コード	K1-K46			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
General Seminar on Childcare I ----- 保育総合演習 I					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
<p>保育に必要とされる身体活動、あそび歌を数多く体得することで自然な発声、喜怒哀楽などの表現（表情）ができるようになる。</p> <p>クラス全員で作りに上げていく過程でコミュニケーションを図る。</p> <p>園児に発表（本番）することで保育者になる自覚を感じる。</p>						
授業の到達目標						
<p>身体活動の体得をする。</p> <p>保育園訪問に向けて「演目の決定・台本作成・配役決定・劇練習・大道具。小道具製作」実際に保育園を訪問し、劇の発表を行う。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
受講態度		%	%	80 %	80 %	
修了時テスト（実演）		%	%	20%	20 %	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
絵本						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K1-S01
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
英会話 I S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	杉森沙奈恵	
授業の目的						
英会話 I で学んだ英語表現を使って実際に園で働いている状況を作り、ロールプレイや実演などを行う。実際に園で役立つ英語表現の習得を目指すまた同時に英語の歌、英語の昔話などの知識も増やす。						
授業の到達目標						
自分の言葉で自分の思いを英語で表現できる 学習したことを組み合わせ、自分なりのレッスンをすることができる 英語の手遊び歌や昔話の英訳に触れ、日本や海外文化に興味を持つことができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
出席状況		%	%	10%	10%	
態度 (授業内での積極性など)		%	20%	20%	40%	
模擬レッスン		50%	%	%	50%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
・ Happy English for childcare by KINSEIDO						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K1-S02	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Life Sports 生涯スポーツS					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	集中	必修	30	1	富田寿人		
授業の目的							
<p>幼児期の運動遊びから青少年期の専門スポーツやレクリエーションスポーツまで、発育期の子ども達が関わるの運動・スポーツを体験し、運動の意義、運動の仕方、指導方法などについて、習得することが本授業の目的である。</p>							
授業の到達目標							
<p>1. 幼児期から青年期の運動・スポーツの役割・効果を理解する 2. 発育期に必要な運動・スポーツに関する必要な技能を習得する 3. 運動遊びから競技スポーツまで幅広い運動・スポーツのあり方を理解する</p>							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習		実験・実習・実技	○		
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL	○	反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計		
評価項目							
実技の運動能力		60%	30%	10%	40%		
授業に臨む態度		10%	30%	60%	30%		
授業への参加度		30%	40%	30%	30%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
使用テキスト・教材							
アクティブチャイルドプログラム・ガイドブック							

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
運動遊びの意義	1		
運動遊びの実践	3		
運動遊びのふり返り	1	発表	実技テスト
バスケットボールの指導法	1		
バスケットボールの実践	3		
バスケットボールのふり返り	1	発表	実技テスト
バレーボールの指導法	1		
バレーボールの実践	3		
バレーボールのふり返り	1	発表	実技テスト
バドミントンの指導法	1		
バドミントンの実践	3		
バドミントンのふり返り	1	発表	実技テスト
アルティメットの指導法	1		
アルティメットの実践	3		
アルティメットのふり返り	1	発表	実技テスト
ユニホックの指導法	1		
ユニホックの実践	3		
ユニホックのふり返り	1	発表	実技テスト
その他		関連科目	
		健康科学	

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-S03			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Introduction to Information Processing I S 情報処理入門 I S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1年	後期	必修	30	1	小澤 稔	
授業の目的						
現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場においてパソコンの利用スキルが求められる。特に利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を、演習を通して習得することを目標とする。						
授業の到達目標						
①Wordの基本操作ができる ②Excelの基本操作ができる ③PowerPointの基本操作ができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
最終課題 (個人制作)		20%	30%		50%	
途中課題 (個人制作)		30%	10%		40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
情報処理入門						

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
1 Wordの基本操作、文字の入力、フォント設定	2		
2 段落の設定、ページレイアウトの設定、印刷	2		
3 画像（写真、クリップアート、ワードアート）の取り込み	2		
4 図形描画機能の利用	2		
5 Word 総合演習	4	○	△
6 Excel の基本操作、文字・セル・罫線の設定	2		
7 計算式の入力、基礎的な関数、Excel 総合演習	4	○	△
8 PowerPoint の基本操作、デザインの設定、スライドショー	2		
9 アニメーションの作成	2		
10 PowerPoint の総合演習	4	○	△
11 総合課題演習	4	○	○
その他 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	関連科目 情報処理入門 I		

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-S04			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
幼児と音楽表現 S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	鈴木 千緒	
講義内容						
<p>楽曲を演奏したり、子供の歌を歌ったりすることで音楽に必要な音感やリズム感を養う。 楽典を学び、音楽の基礎的な知識を身につける。 ピアノは大学のテキストと自由曲を演奏することにより、学生の力量に合わせた個人レッスンの形態で行う。大学のテキストは記録票に従って進める。</p>						
授業の到達目標						
(1) 音楽を構成する音やリズムの基礎を理解する。 (2) 楽譜を正しく読む能力を身につける。 (3) ピアノを正しく演奏できる。 (4) 正しいリズムと音程で歌を歌うことができる。 (5) 弾き歌いの技術を身につける。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他	課題曲・自由曲の演奏及び発表					
成績評価の方法						
評価観点		知識技能		思考判断表現	関心意欲態度	配点計
		評価項目				
修了時テスト (ピアノ演奏)		15%	10%	10%	10%	35%
修了時テスト (弾き歌い)		15%	10%	10%	10%	35%
楽典		10%	%	10%	10%	20%
受講態度		%	%	10%	10%	10%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
使用テキスト・教材						
こどものうた (チャイルド社) 近畿大学テキスト						

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
<1日目>	10	△	○
1 読譜			
2 ハノンプログラム			
3 個人レッスン			
4 個人レッスン			
5 個人レッスン			
<2日目>	10	△	○
1 楽典			
2 発生と呼吸			
3 弾き歌い			
4 個人レッスン			
5 個人レッスン			
<3日目>	10	△	○
1 調と音階			
2 コードネームと伴奏付け			
3 個人レッスン			
4 個人レッスン			
5 実技試験		○	○
その他	関連科目		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽演奏Ⅰ・Ⅱ ・ 音楽表現（指導法）S ・ 音楽表現技術 S 		

シラバス (授業概要)		年度		2026 年度	
		科目コード		K1-S07	
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
子どもの理解と援助 S				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	内田 博昭
授業の目的					
<p>具体的事例を個人で、そしてペア・グループで検討しながら、幼児の心理学の知識を深め、保育実践力を高めていく。また、子どもを巡る教育的問題をグループで調査し、検討することで、問題の解決に結びつける。</p>					
授業の到達目標					
<p>・乳幼児の発達段階に合わせて効果的な教育活動を行うために必要な心理学の知識と実践方法を身につける。</p>					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
受講態度		%	%	10%	10%
中間課題 (レポート)		30%	10%	%	40%
最終課題 (試験)		40%	10%	%	50%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<p>・保育に活かす教育心理学</p>					

シラバス (授業概要)					年度	2026 年度	
					科目コード	K1-S08	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Health S 健康 (指導法) S					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	後期	必修	30	1	平野 久美子		
授業の目的							
幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。							
授業の到達目標							
幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動遊び」と「基本的な生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション	○		
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
授業態度・意欲			%	%	30%	30%	
面接授業中の課題			20%	20%	%	40%	
授業終了時のレポート			%	30%	%	30%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
萌文書林 事例で学ぶ保育内容 領域「健康」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 (H29 年告示)」チャイルド本社 厚生労働省編「保育所保育指針解説書 (H30 年3月)」フレーベル館							

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-S09			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Human relationS 人間関係 (指導法) S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	田村 都弥	
授業の目的						
領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。 子どもの発達を領域「人Ⅲ」関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。						
授業の到達目標						
子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
随時試験 (筆記)			35%	35%	%	70%
授業での積極性と表現内容			%	%	30%	30%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領(最新版)』 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)』 ・『保育所保育指針(最新版)』 						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-S11			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Environment S 環境 (指導法) S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	山崎 努	
授業の目的						
子どもの好奇心や探求心に気づき、寄り添い、支える保育者としての専門性を育むために、こども園を見学し、子どもの興味関心について検討し、理解を深める。						
授業の到達目標						
(1) 子どもの興味関心について気づくことができる (2) 子どもの興味関心について記録できる (3) 子どもの興味関心について語るすることができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
受講態度		%	%	40%	40%	
提出物 (レポート)		10%	10%	20%	40%	
修了時試験		20%	%	%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
適宜資料を配布する						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. はじめに	2		
2. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」のねらいと内容	2		
3. リスクと価値	2		
4. 身近な自然環境を探す	4		
5. 遊びこめる環境を考える	4		
6. 子どもを観察する	4		
7. 記録と対話	4		
8. 興味関心に寄り添う環境構成	4		
9. 身近な人的環境・求められる保育者像	2		
10. 修了時試験	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。 動きやすく季節に合った服装で参加すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と環境 ・ 人間関係（指導法） ・ 言葉（指導法） ・ 環境（指導法） ・ 造形表現 ・ 音楽表現 		

シラバス (授業概要)		年度	2026年度		
		科目コード	K1-S12		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Toddlers and words 言葉 (指導法) S				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	江塚 会里
授業の目的					
幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必修科目である。『保育所保育指針』幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。講義形式・グループワークを実施する。					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての言葉(言語)の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ・子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身につけ、実践できる。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
受講態度・意欲・出席状況		%	%	20%	20%
テスト (レポート)		10%	10%	10%	30%
制作課題		20%	20%	10%	50%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児と言葉」(萌文書林)・「幼稚園教育要領(最新版)」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)」・「保育所保育指針(最新版)」 					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 人間にとって言葉とは何か	2		
2. 子どもの言語獲得	2		
3. 保育内容・言葉を理解する視点としてのコミュニケーション	2		
4. 保育内容・言葉「ねらい」の理解 「目標」「内容」との関連を通して	2		
5. 応答的/積極的関わり・言葉以前のコミュニケーション 「内容」の理解	2		
6. 言葉を通じた楽しい関わり-「内容」の理解	2		
7. 基本的信頼関係の構築-「内容」の理解	2		
8. 子どもの言葉をひきだす保育者の関わり-「内容」の理解	2		
9. 物語と子どもの表現力・文字への気づき-「内容」の理解	2		
10. 子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践 まとめ	2	○	○
11. 言葉を育む児童文化財	10	○	○
その他		関連科目	
※実務経験のある教員が担当する科目である。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と言葉 ・ 人間関係（指導法） ・ 言葉（指導法） ・ 環境（指導法） ・ 造形表現 ・ 音楽表現 	

シラバス (授業概要)		年度	2026 年度			
		科目コード	K1-S13			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Shape Disfigured S 造形表現 S (指導法)					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	戸塚 恵	
授業の目的						
作品制作を通じて創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく、感性豊かに学び、幼児教育における造形表現の基礎知識を習得する。保育者として子供を援助し、他の生活領域や表現分野とのかかわりに気を配りながら、造形表現を通して感動を伝え合う喜びを大切にできる様、造形の基礎から応用まで体験する。						
授業の到達目標						
造形の基礎となる、平面(絵画・デザイン)立体(積み木)の作品制作を通して基礎的な技術を学び、幼児の造形活動への理解を深める。 制作した作品を使って実際に遊びをシミュレーションし、幼児の世界を体感しながらお互いの制作物についての理解を深める。						
成績評価の方法						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
大型工作		25%	%	%	25%	
積み木		25%	%	%	25%	
レクリエーション制作		15%	10%	%	25%	
グループワークでの協力		%	10%	15%	25%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
大型工作用耐水絵具、段ボール用大型カッター、ステンレス 60センチ定規、接着剤(マルチボンドやテープ類)、段ボール、工作用の素材廃品(容器類・箱・包装紙など)、積み木						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. こどもが入って遊べる段ボールハウスを制作しよう！		○	○
① 制作概要	1		
② チームに分かれて話し合い制作計画・設計	1		
③ 制作手順と分担	1		
④ 材料確認と段ボールハウス制作 a. 材料採寸切り出し b. 組み立て塗装 c. 装飾	9		
⑤ 制作物の発表プレゼン	1		
2. 積み木		○	○
①塔を作ろう！ 全員で大きな塔を制作	3		
②街を作ろう！ 2、3人のグループで街づくり	4		
3. 楽しい夏祭り～レクリエーション制作		○	○
① グループワークで話し合い	2		
② レクリエーション用の遊び用具づくり	4		
③ 飾り制作と飾り付け	2		
④ 実際に遊びながら発表会	2		
その他	関連科目		
	造形表現（指導法） 幼児と造形表現 S		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K1-S17
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Music expression 音楽表現 (指導法)					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	鈴木 千緒	
講義内容						
「表現」領域の中核的な保育内容である「表現遊び」の中から、保育者の援助や指導の在り方を考える。 音楽による表現の方法を自ら考え、実践する。						
授業の到達目標						
(1) 音やリズムの効果的な使い方を考えることができる。 (2) 保育現場で場面に即した音楽が提供できる。 (3) 広い音楽のレパートリーを持つ。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他	課題曲・自由曲の演奏及び発表					
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト (ピアノ演奏)		%	20%	30%	50%	
修了時テスト (歌)		10%	10%	10%	30%	
受講態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
こどものうた (チャイルド社) 近畿大学九州短期大学テキスト 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
<1日目>			
1 教育要領 保育所保育指針における領域「表現」	10	△	△
2 幼児と音楽の関わり 幼児と保護者への指導			
3 幼児との理解と評価			
4 音楽表現遊び（手あそび・歌あそび）			
5 音楽表現遊び（音描きあそび）			
<2日目>			
1 指導計画 指導案作成	10	△	△
2 音楽表現あそび（リズムあそび）			
3 音楽表現あそび（楽器あそび）			
4 複合音楽あそび（言葉と音楽あそび）			
複合音楽あそび（音楽劇あそび）			
<3日目>			
1 グループ研究	10	○	
2 グループ研究		○	
3 グループ研究		○	
4 発表		○	○
5 発表 指導 振り返り		○	○
その他	関連科目		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と音楽表現 ・ 音楽表現技術 ・ 音楽演奏 		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K1-S18	
					時間数は45分換算		
授業科目名					学科・コース		
play a play S 劇あそび (指導法) S					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	後期	必修	30	1	江塚 会里		
授業の目的							
園における表現活動や保育所保育指針、教育要領から、子どもにとっての表現の意義と保育者の援助方法について学習する。領域「表現」のねらい、内容について理解し、実際に表現遊びの実践を行う。							
授業の到達目標							
幼稚園教育要領や保育所保育指針における「表現」領域の学習。グループ及び学科全体で劇遊びの演習を楽しむ中で、表現領域にとどまらず総合的な遊びへと発展していくための保育者の役割を学習する。							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○		
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
授業態度・意欲			%	%	20%	20%	
グループ活動への参加度			10%	10%	10%	30%	
発表態度・表現力			%	20%	%	20%	
レポート			30%	%	%	30%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 (H29年告示)」チャイルド本社 厚生労働省編「保育所保育指針解説書 (H30年3月)」フレーベル館 印刷物・絵本・小道具・大道具作りに使う教材							

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 教育要領、保育所保育指針における「表現」領域ねらいと内容	1		
2. 劇遊びの意義と役割	1		
3. 年齢、月齢による表現活動のねらい	2		
4. 内容「言葉」との関連。絵本、物語のもつ力	2		
5. 子どもとともに行う表現活動	10		
活動計画	2		
評価について	2		
実践と中間発表	2		
グループ活動	2		
テーマ性をもたせた表現活動	2		
6. 表現活動発表	2	○	○
7. 反省を生かした表現活動の工夫	2	○	○
8. 発表を前提にした保育者による劇遊びの表現方法	10		○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K1-S20			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Childcare for children with disabilities 児童文化 S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
講義と製作実習と演習を行う。 講義 — 児童文化の実例をもとに子どものための児童文化を理解する。 製作実習— グループで話し合い、児童文化財を作る。 演習 — グループ発表をする。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっての児童文化の必要性を理解できる。 ・遊びの分類、種類を学び、児童文化財が子どもたちにとってどのような影響を与えるかを理解できる。 ・伝承遊び、絵本、紙芝居、おもちゃ、遊び場と施設、遊具等の意義と与え方が理解できる。 ・子どもたちの「生きる力」の発達のための非認知能力を育む児童文化を作成し、実演しあうことで深く理解する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度			%	%	10%	10%
制作課題			10%	10%	10%	30%
グループワーク			10%	10%	10%	30%
発表			10%	10%	10%	30%
使用テキスト・教材						
・近畿大学九州短期大学テキスト「児童文化」						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度		
		科目コード	K1-S22		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Student teaching instruction 教育実習事前事後指導 S				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	20	1	江塚 会里
授業の目的					
幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。①幼児期の発達段階、②幼稚園の機能と役割、③ 幼稚園教諭の職務と役割、④観察記録の作成方法、⑤指導計画の立案方法。					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。 ・観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。 ・「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
意欲・態度		%	%	30%	30%
单元ごとのレポート (指導案、実習日誌)		20%	20%	10%	50%
実習事前レポート		%	20%	%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 (H29年告示)」チャイルド本社 厚生労働省編「保育所保育指針解説書 (H30年3月)」フレーベル館 石崎裕子他編「新訂 知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版」同文書院 2018年					

シラバス (授業概要)					年度	2026 年度		
					科目コード	K1-S23		
					時間数は45分換算			
授業科目名					学科・コース			
Internship at preschool 教育実習①S					未来こども科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
1	後期	必修	30	1	江塚 会里			
授業の目的								
<ul style="list-style-type: none"> ・実習で使用する手あそび、歌あそび、ゲームなどのレパートリーを増やす。 ・配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成する。 ・実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成する。 								
授業の到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 ・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。 								
授業方式								
対面	○	ライブ型			オンデマンド型			
授業形態								
講義		演習			実験・実習・実技	○		
アクティブ・ラーニング								
グループワーク		フィールドワーク	○	プレゼンテーション				
ロールプレイ		PBL		反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業				
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
		意欲・態度	%	%				
実習日誌 (指導案、実習日誌)		10%	10%	10%	10%	30%		
園評価		10%	10%	10%	10%	30%		
実習事前レポート		%	10%	10%	10%	20%		
		%	%	%	%	%		
		%	%	%	%	%		
		%	%	%	%	%		
使用テキスト・教材								
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 (H29年告示)」チャイルド本社 厚生労働省編「保育所保育指針解説書 (H30年3月)」フレーベル館 石崎裕子他編「新訂 知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版」同文書院 2018年								

2026年度

未来こども科

2年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-K10			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
子ども家庭福祉					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	2	岡田 博次	
授業の目的						
子ども虐待、ドメスティックバイオレンス(DV)、いじめや不登校、社会的引きこもりなどについて学習する。						
授業の到達目標						
子どもの養育する過程を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。特に子どもや子育て家庭をめぐる様々な問題が深刻化している。現代の家族や地域社会の状況や、その中で育つ子どもたちへの理解と対応ができるようになる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度			%	%	40%	40%
中間課題			10%	10%	10%	30%
最終課題(試験)			10%	20%	10%	40%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
・『児童家庭福祉』(ミネルヴァ書房)						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度		
					科目コード	K2-K13		
時間数は45分換算								
授業科目名					学科・コース			
Childcare principle 保育原理					未来こども科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	30	2	平野 久美子			
授業の目的								
<p>保育の歴史の変遷について知ることができる。 要領等から見る保育の基本を学ぶことができる。 多様化する保育を理解し、実践につなげることができるようになる。</p>								
授業の到達目標								
<p>子ども子育て支援新制度施行以来、子どもに対する保育・教育のあり方や利用する保護者や子どもの状況は多様化している。「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」を基本に、保育の基礎となる思想や歴史の変遷について理解し、保育のあり方について考察を深める。</p>								
授業方式								
対面	○	ライブ型		オンデマンド型				
授業形態								
講義	○	演習		実験・実習・実技				
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ		PBL		反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○			
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時テスト(筆記)					20%	%	%	20%
課題					20%	20%	%	40%
受講態度					20%	%	20%	40%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
使用テキスト・教材								
保育原理(近大テキスト)								

シラバス (授業概要)					年度	2026年度		
					科目コード	K2-K16		
時間数は45分換算								
授業科目名					学科・コース			
保育の心理学					未来こども科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	30	2	中村洋子			
授業の目的								
<p>子どもの心理や精神保健、発達過程における特性を理解し、保育者として見通しを持った援助が実践できるようになることを目標としていく。また子どもが環境や人との関りを通じて発達、成長していく過程を理解し保育者としての役割を討議していく。</p>								
授業の到達目標								
<p>(1) 子どもの発達に関する心理学的理論を踏まえ発達を捉える視点について理解できる。 (2) 乳幼児期から各時期における運動、認知、言語、社会性の発達について説明できる。 (3) 生活や遊びを通じた子どもの学習プロセスを理解し、発達援助のあり方を理解する。 (4) 発達援助の方法について検討論理的に文章化ができる。 (5) 幼児の心身の発達を踏まえ教育活動を支える指導の基盤となる考え方が身につく。</p>								
授業方式								
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型				
授業形態								
講義	○	演習		実験・実習・実技				
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ		PBL		反転授業				
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業				
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時テスト(筆記試験)					20%	20%	10%	50%
受講態度					%	%	30%	30%
出席状況					%	%	20%	20%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
使用テキスト・教材								
『保育の心理学 - シリーズ知のゆりかご - 』青木紀久代編. みらい								

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K2-K17	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
子ども家庭支援の心理学					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	後期	必修	30	2	遠藤 友也		
授業の目的							
現代の親子関係や家族関係のライフサイクルを理解し、子育てや家庭をめぐる諸問題について考えていく。また子ども家庭福祉に関する心理学的知識や家庭の意義と機能を考察し、子育てを取り巻く社会の現状を理解していく。							
授業の到達目標							
(1) 現代社会における子どもと家族、家庭が置かれている現状について理解できる。 (2) 子どもの育ちに関わる社会、人間関係、社会制度の現状と課題について説明できる。 (3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について包括的に捉える視点を習得できる。 (4) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し発達課題について理解する。 (5) 特別なニーズを必要とする子どもや家庭の援助の方法が身につく。							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
修了時テスト(筆記試験)			20%	20%	10%	50%	
受講態度			%	%	30%	30%	
出席状況			%	%	20%	20%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
『子ども家庭支援の心理学 - シリーズ知のゆりかご - 』青木紀久代編. みらい							

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション 生涯発達とは何か ライフサイクル理論	2		
2. 乳幼児期から学童期前期にかけての発達	2		
3. 学童期後期から青年期にかけての発達	2		
4. 成人期・老年期における発達	2		
5. 子育てを取り巻く社会的状況 現代の子育ての難しさ	2		
6. 家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解	2		
7. 子育ての経験と親としての育ち ライフコースと仕事・子育て	2		△
8. 多様な家庭形態とその理解 現代の多様な家庭 援助のポイント	2		
9. 特別な配慮を必要とする家庭① 保護者の疾患や子どもの障害	2		
10. 特別な配慮を必要とする家庭② 子どもの貧困と虐待	2		
11. 特別な配慮を必要とする家庭③ 発達支援の必要な子ども支援	2		
12. 多様な家庭への支援 事例検討 グループ演習	2	○	
13. 子どもの精神保健 子どもの心の健康に関わる症状	2	○	
14. 多様な家庭に向けた支援 ペアレントプログラムの概要と効果	2		
15. 修了試験 筆記試験	2	○	○
その他			
※実務経験のある教員が担当する科目である。			
			関連科目 幼児の心理学 子どもの理解と援助S 保育の心理学 教育相談

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-K18			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Child family support theory 子ども家庭支援論					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	久保田 幸年	
授業の目的						
子育て家庭が抱える課題やニーズの多様性を知り、それらが子どもの育ちや生活にどのような影響を与えるのか考察し、理解を深める。そこから家庭支援の必要性を理解し、支援方法や活用できる社会資源等の知識を深め、保育者としての視点や価値観を広げていく。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭が抱える課題やニーズにはどのようなものがあるのか知る。 ・社会的背景や各家庭状況によってどのような課題やニーズが現れてくるか想像できる。 ・活用、連携できる社会資源や機関について知る。 ・保育現場において子ども家庭支援の必要性を理解する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		30%	20%	%	50%	
単元毎レポート		10%	20%	%	30%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
新基本保育シリーズ 子ども家庭支援論 演習課題(オリジナルプリント)						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1 子ども家庭支援の意義と必要性/子ども家庭支援の目的と機能	2		
2 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	2		
3 子育て家庭の福祉を図るための社会資源	2		
4 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義	2		
5 子どもの育ちの喜びの共有	2		
6 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	2		
7 保育士に求める基本的態度	2		○
8 家庭の状況に応じた支援	2		
9 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	2		
10 子ども家庭支援の内容と対象	2		
11 保育所等を利用する子どもの家庭への支援	2		
12 地域の子育て家庭への支援	2		
13 要保護児童およびその家庭に対する支援	2		
14 子育て支援に関する課題と展望	2		
15 終了試験	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	社会福祉 子ども家庭福祉		

シラバス (授業概要)		年度	2026 年度			
		科目コード	K2-K19			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Special support for young children 幼児への特別な支援					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	仲安 寛元	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・「障がい」の言葉の意味理解を深める。 ・障がい児の行動上のあらわれを知り、保育者の対応を学ぶ。 ・障がいへの合理的配慮について、支援方法や環境構成について学ぶ。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児への具体的な対応について検討し提案することができる。 ・玩具を通じた発達の見方について理解できる。 ・保育の環境構成について考え、支援ツールを作成することができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度				10%	10%	20%
中間課題 (レポート)			30%			30%
最終課題 (試験)			50%			50%
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかる障害児保育」 ミネルヴァ書房 ・関連する新聞、手記など 						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-K20			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Children's Health 子どもの保健					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2年	通年	必修	30	2	森上 綾子	
授業の目的						
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保険について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防及び多色間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。						
授業の到達目標						
子どもの身体発育、精神発達、疾患等の特徴を知り、健康の保持増進に資する能力を獲得できるようになる。 母指健康対策や保健活動計画を理解する。 子どもの発育発達を学ぶと同時に、自分自身の健康についても関心を持ち学ぶことができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	○	
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
受講態度		%	%	10%	10%	
小テスト		15%	15%	%	30%	
最終試験		%	%	%	60%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
・テキスト：新版よくわかる子どもの保健 ミネルヴァ書房 ・資料：オリジナルプリント ・関連する統計資料、新聞記事など						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. ガイダンス/子どもの心身の健康と保健の意義			
1-1 生命の維持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	1		
1-2 健康の概念と健康指標	1		
1-3 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	2		
1-4 地域における保健活動と子供虐待防止	2		
2. 子どもの身体的発育・発達と保健			
2-1 身体発育及び運動機能の発達と保健	2		
2-2 生理機能の発達と保健	4		
3. 子どもの心身の健康状態とその把握			
3-1 健康状態の観察	2		
3-2 心身の不調等の早期発見	2		
3-3 発育・発達の把握と健康診断	1		
3-4 保護者との情報共有	1		
4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応			
4-1 主な疾病の特徴	1		
4-2 子どもの疾病			
①整形外科疾患	1		
②感染症、予防接種	2		
③呼吸器、消化器疾患	2		
④循環器疾患、血液、腫瘍性疾患	2		
⑤泌尿、生殖器疾患、中枢神経系疾患 他	2		
⑥アレルギー疾患、他	2		
5. まとめ・修了試験		○	○
各単元終了後 小テスト		○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの健康と安全 (演習) ・ 乳児保育 I ・ II 		

シラバス (授業概要)		年度	2026 年度			
		科目コード	K2-K21			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
子どもの食と栄養				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	末永 美雪	
授業の目的						
<p>保育者として求められる資質を得るために、小児の発達・発育の特性、健康・栄養に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>保育現場の実際との関連性から、知識を実践化させる力を目指す。</p>						
授業の到達目標						
<p>栄養に関する基礎知識を理解し、説明できる。</p> <p>子どもの発達段階の特性や、栄養について理解し、説明できる。</p> <p>子どもの食生活上の問題を理解し、保育者として支援する意識・意欲を持つことができる。</p> <p>調理技能の習得を目指す意欲が持てる。</p>						
授業方式						
対面		ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時試験 (筆記)			50%	%	%	50%
随時試験 小テスト (筆記)			%	40%	%	40%
受講態度			%	%	10%	10%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
<p>テキスト：二見大介・高野 陽 編著、『子どもの食と栄養』、北大路書店 2017 年版</p> <p>参考文献：『食品成分表』 女子栄養大学出版部</p> <p>菅原 園他『発育期の子どもの食生活と栄養』、学建書院</p>						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1：栄養に関する基礎知識①糖質 脂質	2	○	
2：栄養に関する基礎知識②タンパク質 ビタミン ミネラル	2	○	
3：食事摂取基準の意義とその活用	2	○	
4：発育・発達と栄養・食生活	2	○	
5：摂食機能の発達	2	○	
6：妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント	2	○	
7：乳児期の授乳・離乳の意識と食生活①乳児栄養の特徴	2	○	
8：乳児期の授乳・離乳の意識と食生活②母乳栄養の意義と授乳法	2	○	
9：乳児期の授乳・離乳の意識と食生活③離乳と離乳食	2	○	
10：幼児期の心身の発達と食生活①幼児期の食生活の特徴	2	○	
11：幼児期の心身の発達と食生活②間食	2	○	
12：幼児期の心身の発達と食生活③栄養上の問題と健康への対応	2	○	
13：幼児期の心身の発達と食生活④幼児期の食育	2	○	
14：学童期・思春期の心身の発達と食生活	2	○	
15：試験	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	子どもの食と栄養 S		

シラバス（授業概要）					年度	2026年度	
					科目コード	K2-K23	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
乳児保育 I					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	前期	必修	30	2	山田美由貴		
授業の目的							
<p>保育の専門職あるいは保護者として、そのかけがえのない生命の保護と健やかな成長発達を促すための保育・養護の知識と技術・態度を習得する。命を育むために、保育者自身の身体健康について理解を深める。子どもについての成長と発達段階を学び、対象に応じた適切な個人差・年齢差を理解し、愛情深い養護や生活上の保育方法や観察・評価の技術の習得をする。子育て環境に留意し、対象者のニーズに即した育児支援ができるために必要な知識・技術・態度を学習する。</p>							
授業の到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係 機関との連携について理解する。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計		
評価項目							
修了時テスト（筆記）		40%	%	%	40%		
随時テスト（筆記）		20%	%	%	20%		
課題		10%	20%	%	30%		
受講態度		%	%	10%	10%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
使用テキスト・教材							
はじめて学ぶ乳児保育 第二版 市販本（同文書院）改訂版							

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 乳児保育の意義・目的と役割 ・全体ガイダンス	2		
(1) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	2		
(2) 乳児保育の役割と機能	2		
(3) 乳児保育における養護及び教育	2		
2. 乳児保育の現状と課題 (1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況 と課題	2		
(2) 保育所における乳児保育	2		
(3) 保育所以外の見守り施設 (乳児院等) における乳児保育	2		
(4) 家庭的保育等における乳児保育	2		
(5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	2		
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (1) 3歳未満児の生活と環境	2		
(2) 3歳未満児の遊びと環境	2		
(3) 3歳以上児の保育に移行する時期の保育	2		
(4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や 関わり (5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	2		
(6) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義	2		
4. 乳児保育における連携・協働 (1) 職員間の連携・協働 (2) 保護者との連携・協働 (3) 自治体や地域の関係機関等との連携・協働	2		
修了試験	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	乳児保育Ⅱ 子どもの保健 子どもの健康と安全 (演習)		

シラバス (授業概要)					年度	2026 年度	
					科目コード	K2-K24	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
乳児保育Ⅱ (演習)					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	前期	必修	30	1	山田美由貴		
授業の目的							
子ども(乳幼児)の身体発育の理解と把握、健やかな成長発達を促すための保育・養護の知識と技術・態度を習得出来ること、また乳幼児の病気の早期発見のための観察力や事故や感染などの健康安全管理についての理解が出来るようになることを目的としていきます。子育て環境の変化・ニーズに即した育児支援ができるために必要な知識・技術・態度を学習していきます。アクティブラーニング型の科目。							
授業の到達目標							
1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
演習記録・課題ノート			20%	30%	%	50%	
受講態度			%	10%	40%	50%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
はじめて学ぶ乳児保育 第二版 市販本 (同文書院) 改訂版							

授業内容・授業計画			
内 容	時間	演習記録	評価
乳児保育の基本 (1) 子どもと保育士等との関係の重要性 (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	2		
(3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち (4) 子どもの体験と学びの芽生え	2		
2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際	2		
(1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境	2		
(2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成	2		
(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 抱っこ、おんぶ・寝かせ方	2	○	○
(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 衣服の着脱・排泄(トイレトレーニング・おむつ交換)	2	○	○
(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 清潔習慣(手洗い・うがい・沐浴)	2	○	○
(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 栄養(調乳・乳幼児の栄養について)	2	○	○
(4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 絵本・言葉の獲得・ベビーマッサージ	2	○	○
(5) 子ども同士の関わりとその援助の実際	2	○	○
3. 乳児保育における配慮の実際 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 安全管理・対処法	2	○	○
(1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 危機管理・災害対策	2	○	○
(2) 集団での生活における配慮 ・衛生管理 (3) 環境の変化や移行に対する配慮	2		
4. 乳児保育における計画の実際 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画 (2) 個別的な指導計画と集団の指導計画	2		
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	乳児保育Ⅰ 子どもの保健 子どもの健康と安全(演習)		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K2-K29
					時間数は45分換算	
授業科目名					学科・コース	
Education Consultation 教育相談					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	戸田 真祐子	
授業の目的						
教育相談において必要な心理学的知識を学び、理解を深める。 またグループワークを通してケースを体験し、具体的に必要な支援を考える力を身につけていく。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・得た知識をもとに子どもの様々な表れや気持ちについて深く考え、理解する。 ・自己理解を深め、様々な場面における自身の心の動きを知る。 ・保育・教育現場において子どもや保護者の抱える問題や課題についての知識を習得し、現場で実践できるような応用力を身につける（グループワークを通して）。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
修了時テスト（筆記）		50%	%	%	50%	
レポート		%	30%	%	30%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
・子育て支援カウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-K31			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
保育実践演習					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
この授業では、これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、課題・発表・ロールプレイ、模擬保育を組み合わせる行う。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園実習、保育実習の振り返りを行い、保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。 ・保育し、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。 ・保育士、幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度・意欲			%	%	10%	10%
課題			10%	10%	10%	30%
レポート			10%	10%	10%	30%
発表			10%	10%	10%	30%
使用テキスト・教材						
・保育・教職実践演習						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1 オリエンテーション 学外実習に対する自己評価	2	○	△
2 自分の保育観 (保育者・教師としての使命・仕事への責任・子どもへの愛情など)に気付く	4	○	△
3 保育者と子どもの関わりを考える	4	○	△
4 保育者と保護者の関わりを考える	4	○	△
5 指導計画案を振り返り、子どもの発達を踏まえた指導計画の立て方、クラス運営について確認する	4	○	△
6 指導計画案を振り返り、子どもの発達を踏まえた指導計画の立て方、クラス運営について確認する	4	○	△
7 グループワーク	4	○	○△
8 発表	2		○
8 まとめ	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践演習 S ・ 教育実習 I ・ II ・ 保育実習 I ・ II 		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度		
					科目コード	K2-K32		
					時間数は45分換算			
授業科目名					学科・コース			
子どもの健康と安全(演習)					未来こども科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	通年	必修	30	1	森上 綾子			
授業の目的								
子どもの発達や状態に即した適切な対応を理解し、身近なケガや疾病、事故に対して適応急処置に対応できる技能を習得する。								
授業の到達目標								
発育の時期に応じた必要な知識や技術を習得する。 子どもの健康増進のための基本的知識、緊急時の応急処置を理解する。								
授業方式								
対面	○	ライブ型		オンデマンド型				
授業形態								
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○			
アクティブ・ラーニング								
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ		PBL		反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業				
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
演習					50%	20%	10%	80%
レポート					20%	%	%	20%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
使用テキスト・教材								
テキスト「よくわかる子どもの健康と安全」 ミネルヴァ書房 資料 オリジナルプリント								

授業内容・授業計画			
内容	時間	課題 試験	評価
1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	2		
2. 感染症の対処法 演習	2		○
3. 危機管理・事故予防 演習	6	○	○
4. 子どもの生活と保健的対応	2		
5. 身体の清潔・調乳 演習	2		○
6. 健康状態の観察	4		
7. アレルギー疾患への対応 演習	2	○	○
8. 救急時の対応（応急処置・心肺蘇生法）演習	4		○
9. 災害時の対応	2		
10. 健康及び安全管理 まとめ	4	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの保健 ・ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 		

シラバス (授業概要)		年度	2026 年度			
		科目コード	K2-K36			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Internship at preschool 保育実習 I (施設)					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	60	2	江塚 会里	
授業の目的						
<p>「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設(保育所以外)で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ②子どもや障害者への理解を深める③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
意欲・態度		%	%	20%	20%	
実習日誌(記録・指導案)		10%	10%	10%	30%	
施設評価		10%	10%	10%	30%	
事前事後レポート		%	10%	10%	20%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
・『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-K37			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Childcare training instruction II ----- 保育実習指導II(演習)					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
「保育実習(保育所)」での自己評価と課題・今後の学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習II」に関する目的を明確にし、「保育実習II」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習事前事後指導」「保育実習(保育所)」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 ・保育士として自己の課題を明確化する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
受講態度・意欲・出席状況		%	%	30%	30%	
課題		10%	10%	20%	40%	
レポート		10%	10%	10%	30%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・『保育所保育指針解説書』 						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 保育実習(保育所)Ⅰの振り返り(報告会)	4	○	△
2. 保育実習Ⅱの目的・意義について	4		△
3. 保護者・家庭への支援と地域社会への連携について	4		△
4. 保育実習Ⅱに向けた、各自の実習目的、課題、学習計画の作成	4	○	△
5. 教材研究・指導計画の作成	4	○	△
6. 記録の書き方	6		△
7. 保育実習(保育所)Ⅱの振り返り(報告会)	4	○	△
その他		関連科目	
※実務経験のある教員が担当する科目である。		<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ(保育) ・保育実習Ⅱ 	

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-K38			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Internship at preschool 保育実習Ⅱ					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	60	2	江塚 会里	
授業の目的						
<p>「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ②子どもへの理解を深める③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるが理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 ・「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
意欲・態度			%	%	20%	20%
実習日誌 (指導案、実習日誌)			10%	10%	10%	30%
園評価			10%	10%	10%	30%
実習事前レポート			%	10%	10%	20%
使用テキスト・教材						
石崎裕子他編「新訂 知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」同文書院 2018年						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度		
		科目コード	K2-K40		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Pre-training post-mortem instruction II 実習事前・事後指導II				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	2	江塚 会里
授業の目的					
保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程の実習事前事後指導Sの理解をさらに深めるために学校独自が設定した実習指導である。単位実習の意義を理解した上で、各実習に対応できるように単位実習全般にかかわる内容を学習する。					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・単位実習の全体的な枠組み、実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にする。 ・実習生として必要な態度・マナーを身につける。 ・実習に必要な書類や実習中の記録の書き方を身につける。 ・指導計画案の作成に関わる知識と技能を、身につける。 ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
受講態度・意欲・出席状況		%	%	30%	30%
課題		10%	10%	20%	40%
レポート		10%	10%	10%	30%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 教育・保育実習実技ガイド ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・配布資料 					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション 実習の意義 実習の心構え 実習先の理解 等	1		
3. 実習生としての態度・マナー・体調管理	1		
4. 実習に必要な書類 実習生調査票の書き方	2		
5. 実習目標の記入 実習目標の立て方	4		
6. 実習記録について 実習日誌の書き方ポイントや記入上の注意 書き方の練習	4		
7. 保育指導案の考え方 保育指導案の実際（作成）	6		
8. 模擬保育（部分実習）	4		
7. 実習前オリエンテーションについて 電話の掛け方 オリエンテーションの受け方	2		
8. 実習に向けての直前指導 先輩の経験談	2		
9. 事後指導 実習の振り返り お礼状の作成	4		
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 ・保育実習 		

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K2-K42
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
音楽演奏Ⅱ					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	1	依田 真理子 鈴木 千緒 鈴木 加絵	
授業の目的						
音楽は保育現場で欠かすことのできない情操教育であり、歌やピアノなどの演奏は子供と関わる上で必要不可欠なスキルである。1年で学習した知識をもとに、さらに技術の向上を目指し、より一層実践的な音楽の能力を養う。						
授業の到達目標						
(1) 楽譜を読む能力をつけ、正確に演奏できる。 (2) 楽譜を正しく理解し、音楽を表現できる。 (3) 広い演奏のレパートリーを持つことができる。 (4) 合奏の技術を身につける。 (5) 保育現場でそれぞれの場面に合った音楽を活用できる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他	課題曲・自由曲の演奏及び発表					
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト (ピアノ演奏)		15%	15%	20%	50%	
修了時テスト (弾き歌い)		20%	10%	10%	40%	
受講態度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
こどものうた (チャイルド社) 近畿大学テキスト						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K2-K44
					時間数は45分換算	
授業科目名					学科・コース	
実践講座Ⅱ					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	1	寺澤 和美	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・実践講座Ⅰにて学んだ、保育における制作の基礎を元に、季節や行事等に適した制作の技術、アイデアや制作技法の応用を習得していく。 ・制作を保育的な視点で捉え、子どもの発達や、あそびの展開、日常との連続性等が感じられるようにする。またその中で、子どもたちの表現を引き出すような制作の設定、展開方法を学ぶ。 ・毎授業導入時に絵本、歌、手あそびを行い、保育の中での実践的な展開方法を学ぶ。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や季節感など、目の前の子どもやクラスの様子に適した制作を自身で考え、保育の中で展開していくことができるようになる。 ・作ることが目的ではなく、保育におけるのねらい、内容を達成するための過程・方法として制作を捉え、子どもたちの主体的活動に繋がるような保育的視点を獲得する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
課題(作品)		20%	20%	%	40%	
発表		20%	20%	%	40%	
忘れ物		%	%	10%	10%	
受講態度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
なし						

シラバス (授業概要) 時間数は45分換算				年度	2024年度	
				科目コード	K2-K44	
授業科目名					学科・コース	
実践講座Ⅱ					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	60	2	鈴木 大貴 (20時間担当) 江塚 会里 (10時間担当)	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・園での遊びを体験し、どんな時期にどんな遊びが子どもたちに適しているのかを学ぶ。 ・幼稚園教諭や保育所保育士、認定こども園保育教諭になるために必要なシアターを、自分なりに創意工夫して製作する。 ・子どもたちの前に立つことを意識し、引き付ける見せ方や話し方などの演じ方を学ぶ。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を意識しながら遊びを体験する中で、子どもへの指導方法や援助の仕方を考えていくことができる。 ・いろいろな技法を学び、効果的に作品を作っていくことができる。 ・子どもたちに伝えたい題材を決め、創意工夫をして作ることができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
課題 (作品)		20%	20%	%	40%	
発表		20%	20%	%	40%	
忘れ物		%	%	10%	10%	
受講態度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	

シラバス (授業概要)		年度	2026年度		
		科目コード	K2-K45		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
こどもと絵本				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	4	江塚会里・青木直子・平野久美子 小澤 稔・井澤真以子・戸塚 恵 上藤美紀代・清水敬子・中川松枝 田力 剛・高林快晴・有賀武史 村松恵次・勝又弓子・堀内古季 勝見留理
授業の目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は認定絵本士養成講座カリキュラムに基づき行われ、認定絵本士に必要な知識・技能・感性を体系的に学ぶ。また、認定絵本士の資格取得後、保育現場を中心に地域の読書活動を推進する担い手となっていく。 					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士として必要となる「知識」、「技能」、「感性」の3領域について、講義や実技により、資質や能力を習得する。 ・絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドラインに示された各単元の修得目標を達成する。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	○
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ	○	PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価項目	評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
出欠状況 (全講義出席)		%	%	30%	30%
受講態度		10%	10%	10%	30%
課題 (レポート)		20%	10%	10%	40%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・中央法規出版「認定絵本士養成講座」 ・東京こども図書館 「よみきかせのきほん」 ・月刊絵本 (福音館書店) 					

シラバス (授業概要)					年度	2026 年度	
					科目コード	K2-K47	
					時間数は45分換算		
授業科目名					学科・コース		
General Seminar on Childcare 保育総合演習Ⅱ					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	必修	30	1	狩俣 進		
授業の目的							
こども保育科での学びの成果として、保育におけるさまざまな表現方法の中から、方法や題材を選び、保育現場における表現活動について研究を進め、一つの作品をつくりあげる。主に人形劇、影絵等の作品づくりに取り組む。							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・人形劇、影絵劇の制作から実践までの過程を体験的に学び、保育現場における表現活動について理解する。 ・人形劇や影絵劇における表現力を身につける。 ・制作過程においてグループワークを体験し、人とのコミュニケーションや実際の保育現場における園児、保護者との信頼関係を作る力を身につける。 ・同じ目標に向かって、クラスや同じグループの仲間と協力したり、意見を出し合ったりしながら、協調性をもって活動する。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ	○	PBL		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計		
評価項目							
受講態度・出席状況		%	%	20%	20%		
グループ活動		10%	20%	10%	40%		
発表		10%	20%	10%	40%		
		%	%	%	%		
		%	%	%	%		
使用テキスト・教材							

シラバス (授業概要)					年度	2026年度
					科目コード	K2-K48
					時間数は45分換算	
授業科目名					学科・コース	
Graduation Research 卒業研究					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	江塚 会里 平野 久美子	
授業の目的						
2年間の集大成として、授業や実習等で学んだことを基に、就職先でも生かせるテーマを各自で設定する。各自設定したテーマに沿って研究を進め理解を深めるとともに、3年間の実習等の実践と結びつけて論文をまとめる。最後に研究成果を発表する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育、保育、福祉等、授業や実習の学びを基に研究テーマを決め、テーマに沿って研究を進め、理解を深める。 ・ 理論と実践を結び付けて考察することができる。 ・ 研究した内容を論文、プレゼンテーション資料にまとめることができる。 ・ 作成した論文を整理し、プレゼンテーション資料を基に発表する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度・出席状況			%	%	10%	10%
論文			10%	10%	10%	30%
プレゼンテーション資料			10%	10%	10%	30%
発表			10%	10%	10%	30%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						

シラバス (授業概要)					年度	2026年度	
					科目コード	K2-S05	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
音楽表現技術 S					未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	必修	20	1	依田 真理子		
講義内容							
<p>「表現」領域の中核的な保育内容である「表現遊び」の中から、保育者の援助や指導の在り方を考える。 音楽による表現の方法を自ら考え、実践する。</p>							
授業の到達目標							
<p>(1) 音やリズムの効果的な使い方を考えることができる。 (2) 保育現場で場面に即した音楽が提供できる。 (3) 広い音楽のレパートリーを持つ。</p>							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技	○		
アクティブ・ラーニング							
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○		
その他	課題曲・自由曲の演奏及び発表						
成績評価の方法							
評価観点				知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目							
修了時テスト (演奏)				15%	15%	20%	50%
修了時テスト (劇発表)				20%	10%	10%	40%
受講態度				%	%	10%	10%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
使用テキスト・教材							
<p>ダルクローズ教育法による「リトミックコーナー」(チャイルド社) 近畿大学テキスト</p>							

授業内容・授業計画

<1日目>

- 1時限目 音名と音階
- 2時限目 音符と休符
- 3時限目 拍子とリズム
- 4時限目 音価の練習／五指の練習
- 5時限目 ピアノ個人練習及びレッスン

<2日目>

- 1時限目 長音階と短音階
- 2時限目 子どもの歌／弾き歌い
- 3～4時限目 ピアノ個人練習及びレッスン
- 5時限目 実技試験（発表会形式）

<3日目>

- 1時限目 音楽劇の実習／計画
- 2時限目 音楽劇／脚本づくり
- 3～4時限目 音楽劇作成
- 5時限目 実技試験（音楽劇の発表）

その他

関連科目

音楽演奏 I・II
幼児と音楽表現 S
音楽表現（指導法） S

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-S06			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Infants and Formative Expressions S 幼児と造形表現 S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	戸塚 恵	
授業の目的						
様々な素材や表現方法を通して自己表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組むことで、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。						
授業の到達目標						
デカルコマニー、マーブリング、スクラッチ、スパッタリングなど図画の基礎的技術の習得とそれらを応用した作品制作。粘土や工作を通して、道具や材料の使い方安全指導を学びながら作品を制作。それぞれの作品作りの感想をまとめながら指導に生かすポイントを精査する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
作品		50%	%	%	50%	
制作のための手順・ポイント・まとめ		20%	%	%	20%	
プレゼン		%	10%	%	10%	
取り組み態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
画用紙、絵の具、スパッタリング、割りばし、粘土、糊、ハサミ、カッター、接着剤、各自必要な工作材料など						

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度
					科目コード	K2-S10
授業科目名					学科・コース	
幼児と健康 S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	近大教員	
授業の目的						
「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる ・各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる ・運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する						
授業の到達目標						
幼児期の運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの広げかたを理解するとともに、運動遊びの指導に必要な保育技術についても検討する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
グループワーク		10%	10%	10%	30%	
レポート		10%	10%	10%	30%	
課題		10%	10%	10%	30%	
受講態度		%	%	10%	10%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
必要に応じて適宜プリントを配布						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-S14			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Childcare for children with disabilities 障害児保育 S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	仲安 寛元	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・「障がい」の言葉の意味理解を深める。 ・障がい児の行動上のあらわれを知り、保育者の対応を学ぶ。 ・障がいへの合理的配慮について、支援方法や環境構成について学ぶ。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・「障がい」について、社会モデルやインクルージョンの意味を理解し、説明することができる。 ・身体障害や発達障害、愛着の基礎的な言葉を理解し、説明することができる。 ・インクルーシブ保育の在り方について考えることができる。 ・障がいの特性に応じた関わり方を理解し、説明することができる。 ・障がい児の親の気持ちについて考えることができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度					10%	10%
中間課題 (レポート)			10%	10%		20%
最終課題 (科目終末試験)			70%			70%
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかる障害児保育」 ミネルヴァ書房 ・関連する新聞、手記、DVD 視聴など 						

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算			年度	2026年度		
					科目コード	K2-S15		
					学科・コース			
Children's Food and Nutrition S 子どもの食と栄養S					未来こども科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	30	1	末永 美雪			
授業の目的								
小児の発育・発達の特徴、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。								
授業の到達目標								
(1) 小児に適切な食事環境を理解し、説明できる。 (2) 小児の発育・発達段階に応じた特性や栄養を理解し、説明できる。 (3) 保育者として求められる調理技能を理解し、技能を習得できる。								
授業方式を理解し								
対面	○	ライブ型		オンデマンド型				
授業形態								
講義		演習	○	実験・実習・実技	○			
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ		PBL		反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業				
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
実習レポート					50%	%	%	50%
課題					10%	10%	%	20%
受講態度					%	%	30%	30%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
					%	%	%	%
使用テキスト・教材								
新 保育ライブラリ 子どもの症と栄養 新版 (北大路書房) 改訂 課題 (オリジナルプリント) 資料 (オリジナルプリント)								

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-S16			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
社会的養護ⅡS					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必須	30	1	徳田 義盛	
授業の目的						
<p>児童の権利擁護の最前線で主体的に活躍できる保育士を育成するために、子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容である社会的養護Ⅰの内容を更に深め、施設養護と家庭養護の実際と課題、支援計画の立案や相談援助・ソーシャルワーク技術など社会的養護における保育士としての専門的技術についての基礎的な理解を深め、施設の小規模かつ地域分散化、施設と里親との連携、児童の権利擁護など今後の社会的養護の課題と展望について考察する。授業の後半では、実際の児童養護施設において社会的養護の現場を体験し、社会的養護の現状と課題を考察する。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設での実践をもとに、個別支援、家庭的小規模集団、家族再構築、里親委託への取り組み等、社会的養護の現状について理解を深めることができる。 ・社会的養護で活躍する専門職の実践をもとに、児童のみならず、家庭、地域の多様なニーズに気づき、効果的な支援に結びつけることのできるソーシャルワーク実践や、コンサルテーションのあり方について理解を深める。 ・社会的養護の最終セーフティーネットである児童養護施設での保育実践を経験することで、社会的養護の必要性や意義について理解を深め、保育現場における児童の権利擁護の実践のあり方を考察することができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
レポート課題		25%	25%	%	50%	
受講態度		%	25%	25%	50%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『新・基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ』中央法規出版						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度		
		科目コード	K2-S19		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Child care support S 子育て支援 S				未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	寺澤 達也
授業の目的					
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。					
授業の到達目標					
① 保育士の行う子育て支援の特性を理解し、支援の実際や今後の展開を学ぶ。 ② 子育て支援における保育者の役割と職務内容を理解する。 ③ 様々な人々との連携した支援方法の基礎を習得する。					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		PBL		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
修了時テスト（筆記）		50%	%	%	50%
小レポート		%	30%	%	30%
受講態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
必要に応じて適宜プリントを配布					

シラバス (授業概要)				年度	2026年度	
				科目コード	K2-S21	
				時間数は45分換算		
授業科目名				学科・コース		
保育実践演習 S				未来こども科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	江塚 会里	
授業の目的						
この授業では、これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、課題・発表・ロールプレイ、模擬保育を組み合わせで行う。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り、保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。 ・保育し、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。 ・保育士、幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
受講態度・意欲			%	%	10%	10%
課題			10%	10%	10%	30%
ロールプレイ			10%	10%	10%	30%
発表			10%	10%	10%	30%
使用テキスト・教材						
・保育・教職実践演習						

シラバス (授業概要)		年度	2026年度			
		科目コード	K2-S24			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Internship at preschool 教育実習②S					未来こども科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	90	3	江塚 会里	
授業の目的						
<p>「教育実習」は、幼稚園教諭免許を取得するために幼稚園で行う実習である。教育実習②の15日間の実習では、専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的に、また相互的に高めていく。また、教育実習②では、指導実習を主とする実習を行う。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 ・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
意欲・態度		%	%	20%	20%	
実習日誌 (記録・指導案)		10%	10%	10%	30%	
施設評価		10%	10%	10%	30%	
事前事後レポート		%	10%	10%	20%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド ・教育・保育実習実技ガイド ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針 						

